

蒲郡マンガ歳時記

休日の計画



ご愛読ありがとうございました

今号で、この「蒲郡マンガ歳時記」は最終話になります。このコーナーを担当していただいた作者は、三谷町在住の竹内比呂美さんです。竹内さんは、現在、漫画家を目指して勉強をしている若者です。

企画広報課 ☎66♦1145

読む



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68♦2059

「アシカショー中断」

最近、アシカのアイがショーを途中で放棄することがよくあります。常連さんにとつてはいつもと違うハプニングが見られるので楽しそうですが、やる方はたまったもんじゃありません。アイはとても頭がいいアシカなので、一度要領を覚えてしま

うと何度もこちらの隙をみてはプールへ逃げてしまいます。それ以降はいくら呼んでも、エサでおびき寄せようとしても帰ってきません。それどころか、我々がエサをあげると、そのエサをくわえたまま、またプールへ逃げ、泳ぎながらゆつくりとエサを食べてしまうこともあります。こうなってくると、正直アシ

カショーのお兄さんは営業用の笑顔なんて作っていられなくなり、腹ワタが煮えくりかえってきて、それが次第に顔に出てきてしまいます。アイはそれを悟り、さらにプールの遠くの方へ逃げます。

結局、ショーは途中で終わりになってしまう、お客さんには残念な、常連さんにとつてはイイモノが見られた、というショーになります。ショーが途中で終わったということがわかるとアイはケロリと表情を変えてプールから上がり、我々をス

テージへ残したままさっさと自分から部屋に帰ってしまいます。アシカとお兄さんの間では「ショーをしつかりやったらエサをあげる」、「エサをくれるならショーをやる」という契約を結んでいるので、この場合エサは抜きになるので、もちろんアシカはそれを知っています。自分のお腹と相談しながら、毎回お腹が満たされたところになるとショーを途中でボイコットします。エサの量の調節が難しく、今後もアシカとの知恵比べが続きそうです。